

「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

| | |
|--------------------------------|--|
| 1. 実施主体 | |
| 本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名 | 川崎市男女共同参画センター |
| 2. 現状及び課題 | |
| 地域内でのキャリア教育に関する現状 | <p>①川崎市においては平成27年度より教育プランが改定されるが、柱の一つに「キャリア在り方・生き方教育」を位置付けている。文科省の定義するキャリア教育に、共生・協働の精神を培うという視点と、郷土を愛し、将来のふるさと川崎の担い手を育成する視点を加えた川崎独自のものを実施する予定である。すでに多くの中学校では職場体験等をはじめとする職業に関わる学習を教育課程に位置付けて確実に取り組んでいる。平成28年度からは、小中学校の9年間をつなぐ「かわさきキャリア在り方生き方ノート」を導入し、学校教育全体を通じた活用を期待している。</p> <p>②平成26年度に行った支援機関・学校へのヒアリングを踏まえ、教育委員会と協議した結果、本協議会の役割として期待されることは特に就労への移行をスムーズに行うための手立として地元企業からの支援をつなぐ役割であり、特に高校(定時制)に対する支援を期待されている。そこで、高校におけるキャリア教育の実施においては、現場の教員の努力に委ねられているのが実情であり取り組み内容や実施状況の学校間の差は大きいことから、体系的に実施しようとしても学校だけでカリキュラムを充実させることが困難な状況にある。とりわけ就労環境の変化を感じ取れたり、実際の働き手に触れたりできるプログラムの構築、受け入れ先の開拓、調整はごく一部に限られている。多忙な学校現場においては必要性を感じていても、実際には教員がコーディネートを一手に引き受けて実施することが難しい実態がある。</p> <p>③川崎市男女共同参画センターにおいては男女共同参画の視点から多様な働き手と次世代をつなぐキャリア教育支援事業を行っており、平成19年より女子生徒およびその保護者の進路選択支援を女性技術者等をゲストスピーカーにした研修会を行ったり、平成24年より学校個別のキャリア教育の支援を行ってきた。平成26年10月からは、本事業を通じて、教育委員会、経済部局や経済団体、PTAの協力を得て「かわさきライフキャリア教育支援協議会」を設置し連携した形で事業を展開している。</p> |
| 地域内でのキャリア教育に関する課題 | <p>【組織・団体を超えた「人」情報をつなぐ役割の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校のニーズや企業等のキャリア教育プログラムの内容や活用・実践例についても個別に学校現場の教員が情報を収集しなければならない状態にあり、更に、各行政機関で様々なメニューがあるも、一体的な運営がなされていないため、個別調整が煩雑になるとの懸念もある。企業側も人材確保が課題となっているにもかかわらず、学校との接点がない、どのような授業協力を求めているのかを具体的に把握することが難しい状況にある。 <p>【キャリア教育プログラムの利活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業講話等においては、卒業生や教員の知人・紹介等の協力によるものが大きく、男女共同参画の観点からの講師選定には至っていない。また、活用方法やその手順、必要な最新情報が学校の実情に合わせた形で利用できる状態にない。また、時間制約の大きい教員にとって一連の体験学習に関わる業務を一手に担うことは難しいという実情がある。 ・特に高校においては経済的な理由などから就職を希望する生徒もおり、生徒の進路が多様化し、非正規雇用の増加や貧困の連鎖等複合的な課題へ直面するケースもあり、一斉指導ではなく個別指導が求められてきている事情を踏まえると教員にとってさまざまな職業・社会に関する情報の引き出しが必要である。 ・企業における若手人材育成の観点や女性の活躍促進、ワーク・ライフ・バランス推進の中で、30-40代の男女も学校教育、社会教育の場にキャリア教育プログラムを介在して参画する機会が求められている。特に中小企業においては、「地域の人に企業への理解を得て採用につなげたい」や「地元の学校へ協力できることがあればいい」との思いがあっても、どのような授業協力を求めているのかを具体的に把握したり、適したプログラムを用意することが企業単位では難しい状況にある。 ・単年度の支援メニューでは生徒の実情に合わせた活用が難しいため体系的なカリキュラムとして学校の年間計画に活かせる形での利用が望ましいが、できる状態になっていない。 |

3. 委託内容に対する取組

(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営

地域の推進体制
(図などを用いて
地域全体の体制
が分かるように
示すこと)



| | 団体名 | 役割 |
|----------------|-------------------------|--|
| 協議会の構成 (予定) | 川崎市男女共同参画センター | 協議会の運営、支援メニュー作成、研修会等の実施、本事業の事務局 |
| | 川崎市教育委員会 | 学校への周知、支援メニュー作成、実施校との調整等 |
| | 川崎市経済労働局 | 支援メニューの実施及び雇用関連の相談機能の提供や労働情報の提供、受け入れ先等の市内企業紹介や関係部署紹介 |
| | 川崎市市民・こども局 人権男女共同参画室 | 男女共同参画の観点からの助言、かわさき男女共同参画ネットワーク団体(44団体)との情報共有、関係団体紹介 |
| | 川崎市商工会議所 | 講師紹介、職場見学・体験・インターンシップ等の受け入れ先等の市内企業紹介・情報提供 |
| | 川崎市工業振興倶楽部 | 講師紹介、職場見学・体験・インターンシップ等の受け入れ先等の市内企業紹介・情報提供 |
| | 川崎市工業団体連合会 | 講師紹介、職場見学・体験・インターンシップ等の受け入れ先等の市内企業紹介・情報提供 |
| | 川崎市PTA連絡協議会 | 各区PTAへの周知を通じた保護者への情報発信 |
| | 国際ソロプチミスト川崎 | 女性の活躍推進に関する情報提供、講師紹介(市内の女性の管理職、経営者)等 |

| | |
|------------------|---|
| 目標 | <p>※地域における課題解決のために、協議会の目標を設定すること</p> <p>学校の実情に即して、市内高校を対象とした、キャリア教育支援を無理なく継続できる仕組みを構築する。特に企業等と学校の双方に「つなぐ、つながる魅力」が体験できる支援メニューを用意し、行政と連携して実践しながら持続可能な支援メニューとして確立する。</p> |
| 方針 | <p>※目標達成に向けて、協議会の取組方針を設定すること</p> <p>①平成26年度の取り組みを踏まえ、教員と企業などの協力者の実施者レベルで事前の研修会を部会として設けることで現場の教員の声を反映する形でキャリア教育の支援メニューを開発し取り組み内容の充実を図る。</p> <p>②既存行政メニューの活用を含む支援メニューの実施に必要な支援者・協力者を確保し調整するとともに支援メニューについては学校現場のニーズを踏まえて必要の可否について精査する。</p> <p>③教育委員会と相談の上、学校種、学校ごとに現場のニーズは異なることから、平成27年度は市立高校(全日制・定時制)5校、平成28年度に市立中学校も一部希望があれば支援対象として周知する。</p> |
| 事業の自立的かつ発展的な運営体制 | <p>①キャリア教育の支援プログラムにおいて経済労働局、男女共同参画センターの役割を明確にし、キャリア教育への支援がそれぞれの事業役割の中で整理され、各事業経費を施策事業の中で確保する形で教育委員会を含む学校現場のニーズにあったキャリア教育の支援を継続できる体制を確保する。</p> <p>②男女共同参画センターにおいては、協議会の下部組織として、緩やかながらも協力者が増えるような仕掛けでNPO・企業市民の協力を得るほか(キャリア教育コーディネーター制度を活用するなどして)コーディネーター人材の育成・確保と継続した支援が展開できるように整備することで事業の持続性を担保することを目指す。</p> |

(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進

①支援を提案する支援提供者を開拓すること

・協議会の構成員を中心に業種の偏りが無いよう様々な分野で活躍する男女を紹介できるように新規の支援者も開拓する。

・企業等の教育コンテンツについては、男女共同参画の観点から企業等と連携して2つ以上のプログラムを作成し支援メニューの講師派遣などで実施する。

(特に理工系分野等の女性が少ない分野についてや専業主婦志向の女子生徒への勤労観や職業選択についての支援プログラムになるよう、「本物の社会」「本物のシゴト」の実情をその職業の数的比率、職業の社会的役割と職業倫理、働き手の仕事を通じて感じることでできるやりがいと仕事にまつわる現実のしんどさ、どの職業にも共通する教養や変化の激しい社会をしなやかに自立して生きていくための経験者からの知恵なども含めて紹介できるよう配慮する。生涯にわたって、男女ともに学校、職場、家庭、地域の中で様々な役割を担いながらキャリアを形成し、能動的に学習し続けながら社会的・職業的自立をめざしていけるよう、講師紹介における分野は様々な分野での専門家の協力を得ながらニーズに合った授業を紹介する。)

・平成26年度に教員と作成した「ライフキャリア教育ワークブック」については、支援メニューの事前事後の学習や出前講座時の資料としても活用する。※支援メニューについては【参考資料】で例示。

②支援に関する提案を学校に提示すること

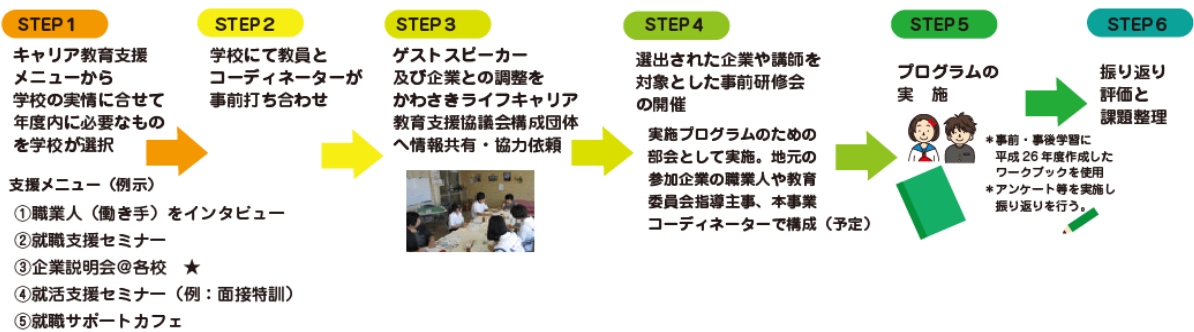
・支援可能な内容についてはWEBコンテンツとして情報をまとめ紹介ページ紹介。

・支援メニューの紹介を学校に出向いて実施し、講師リストについても打ち合わせ時に紹介する。

・教科学習や特別活動などの学習の際、教員が必要と探している講師についての情報は小学校、中学校へも展開が可能なものとするが、教育委員会と相談の上、平成28年度より本格実施される「キャリア在り方生き方教育」の実施に沿う形での活用や情報提供とすることが現場には沿っているため留意して進める。



③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)



(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進

①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること

・川崎市経済労働局、川崎市産業振興財団、川崎市内の工業団体連合会のほか、連携先の協力を得て若手や女性、障害者職員が活躍する職場や技術者、専門職がいる企業など多様な働き方を理解でき、業種の偏りがでないよう、複数の体験学習の協力企業を募り連携し、職業人(働き手)インタビューや職場体験・職場見学等をモデル実施する。企業にとっても生徒にとっても、事前準備や当日、実施後の振り返りまで積極的・主体性に取り組めるよう実施企業のCM作成等をプログラムに組み込むなどの面白さを加味して行う。
・特に事前の部会では協力者が職場体験等の支援について、子どもたちにつけたい力や川崎版キャリア教育「キャリア在り方生き方教育」の理念を企業や保護者が共有できるようにする。

②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること

・支援可能な内容については平成26年度の実施の様子をまとめたものをWEBコンテンツとして情報発信するほか、学校にも提供し判断材料にする。
・支援メニューの紹介を学校に出向いて行い、希望の詳細を把握する。

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)



(4)その他の取組

・継続した市内企業等の協力を得ていくために、体験活動を実施した際の一連の取り組みに係る資料(企業への体験活動や企業教育としてのキャリア教育プログラムづくりや社員の参画のさせ方等)を他の企業等の支援提供者へ協力依頼の際に活用できるよう「かわさきキャリア教育応援サイト」WEBサイト内に事例紹介する。

| 4. 実施内容 | |
|------------|---|
| 実施時期 | 実施内容 |
| 2015年7月～9月 | <p>【1】インターンシップ</p> <p>対象 3年生 47名 / 受入先事業所35事業所 目的 インターンシップを通じて、働くことや自身の適性について深く考える機会をつくる。職場の様子やリアルな業務を学ぶことで、就業イメージを具体化し、職業理解と選択につなげる。</p> <p>内容 生徒の希望に応じた受入先事業所での、1日～5日程度の職場体験。 実施準備【コーディネーター】(すくらむ21) 生徒の希望職種を予め教員を通じて把握し、企業を選定、依頼、受入先を決定</p> <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒への希望調査、保護者への主旨説明 ・決定した受入先を訪問し、挨拶および事前説明 ・生徒へ個別指導(場所、時間、主旨の再確認など) <p>【受入先】</p> <p>受入準備(体験内容検討、受入環境整備など)</p> <p>成果 インターン先でそのままアルバイトをすることになったケースがあり、一方、実際に働いてみて「好き」だけで職業を選ばないことが重要だと気づくケースもあり、自身で希望した職種で職場体験をしたことで、働くことや適正、職業選択について深く考える機会となったことが伺える。50名近い生徒が対象だったが、まとめて職場体験をするのではなく、個々の進路希望の職種をヒアリングしインターンを実施したことは、自身の適正を考え、具体的な働くイメージをもつことができ、目的に沿った有効な事業を実施できたと感じる。また、教員からは、一人ひとり別々に実習することで、生徒たちは自分本来の姿で取り組み、直接自分の評価につながることで実感できた、また、インターン実施後、学校生活での様子に変化が見られた生徒も多かった、という声があり、大変意味のある活動になった。</p> <p>受入先より、高校生に会社を知ってもらいたい機会となった、実際の業務の補佐をしてもらえて助かった、など好意的な意見があったことは、次回以降のインターンシップにもつながる成果と言える。</p> <p>課題 当日の欠勤が(無断、連絡あり含め)11名とかなり多く、準備をしてくれた受入先に多大な迷惑をかけたことは、今回実施した上で大きな問題であった。前年度、希望者だけが参加したインターンシップでは、欠勤が2名と少なかった状況を考えると、今回就職を希望していない生徒も含め、学年全員を対象としたことが、インターンシップへの意識の低さにつながったのではないかと推測できる。受入先からもやる気のある希望者だけを対象にしても良いのではないかと、というご意見もあった。ただ、希望をしない生徒にも参加させることで新たな課題が見え、実施する意義がある、という教員の声もあり、教員、生徒、受入先、コーディネーターそれぞれが同じ方向に向かい、効果的な連携がとれるような体制づくりを検討することは重要課題である。</p> <p>学年全員が個々の希望に合わせた事業所でインターンシップを実施するという実施方法、内容については学校からの希望ではあったが、教員の負担が大きく、また、30箇所以上の受入先企業の選定期間が大変短いことでコーディネートも大変な調整が必要となる。課題が多々あり、得られる成果と合わせて、内容を今後十分検討する必要がある。</p> |

| | |
|----------------------------|--|
| <p>2015年8月25日 ～30日</p> | <p>【2】職業人取材&CM作成 実施校 川崎市立商業高校定時制 目的 働き手への取材を通じて、職業への理解を深めながら働く意義を考えることで、自身の進路選択や働くイメージについて考えるきっかけとする。 対象 写真科学部 5名 内容 タブレット(iPad)により写真・動画を撮影しながら取材を行い、アプリ(ロイロノート)で編集し職業人を紹介するCMを作成する。 実施準備【コーディネーター】(すくらむ21) ・生徒の取材希望職種を予め教員を通じて把握し、働き手に取材依頼をし、決定。 ・タブレットのレンタルの手配 【学校】 ・生徒に取材希望職種のヒアリング ・タブレット及びアプリの使用方法をレクチャー ・質問項目の確認と指導 ・当日のスケジュール、取材先でのマナー、取材方法の指導</p> <p>取材先 丸子橋卓球スタジオ 新井卓将様 株式会社ソフテム 吉田卓様 すこやか溝の口保育園 田中愛華様 秀和運輸株式会社 武山千春様 フリーランス声優 コウト様</p> <p>成果 今回は生徒一人ひとりが取材したい職業の希望を挙げ、希望に沿った職業人をコーディネートした。それにより、課外活動の時間だけでなく、事前準備の中で、自身の将来について向き合い、考える機会としたり、希望する業種について調べることで職業理解へとつながったりと、有効に作用していた。 参加をした生徒自身は、実際の仕事の様子を見聞きしたことで、より具体的に将来について考える材料となっていたことや、職業人からその仕事に就くまでの道のりや、仕事のやりがいや楽しさだけでなくつらさや挫折などを含めた仕事の意義を学び、働くというだけでなく、生き方についても考える機会としていた様子で成長が伺えた。</p> <p>課題 一人で取材することの不安があったようで、当日になり欠席してしまう生徒が出るなど、実施の方法については定時制の生徒という特性も踏まえた上で検討する必要があると感じる。</p> |
|----------------------------|--|

| | |
|--------------------|---|
| <p>2015年12月11日</p> | <p>【3】職業人取材&CM作成 実施校 川崎市立川崎高校定時制 目的 働き手への取材を通じて、職業への理解を深めながら働く意義を考えることで、働くことへの考え方や視野を広げ、自身の進路選択や働くイメージについて考えるきっかけとする。また完成CMの発表の機会を設けることで、プレゼンテーションの力を身に付ける。 対象 第3学年 49名 内容 タブレット(iPad)により写真・動画を撮影しながら取材を行い、アプリ(ロイロノート)で編集し職業人を紹介するCMを作成する。完成したCMは校内で発表する会を設ける。 実施準備 【コーディネーター】(すくらむ21) ・取材希望職種を予め教員を通じて把握し、市内在勤の働き手を選定し、取材依頼 ・タブレットのレンタルの手配 【学校】 ・コーディネーターと打ち合わせ ・取材先事前訪問 ・タブレット及びアプリの使用方法を生徒へレクチャー ・質問項目の確認と指導 ・当日のスケジュール、取材先でのマナー、取材方法の指導 取材先 株式会社エヌアセット(不動産) 株式会社川崎葬儀社(葬儀) 川崎市宮前図書館(公務員) ダンウェイ株式会社(障がい者就労移行支援) NAGAYAかわさき(民間インキュベーション) ナリスビューティーステーション(美容) 日本ミクニヤ株式会社(防災・環境) 株式会社日の出製作所(製造業) フリーランス(声優)</p> |
| | <p>成果 教員による事前訪問で、仕事内容だけではなく、仕事に対する熱意、情熱についても生徒に語ってほしい、という要望をお伝えしていたこともあり、生徒たちからは、仕事への熱意や働き手の強い思い、また働き方だけではなく生き方についてのメッセージも伝わってきたという声があり、「働くこと」を考える機会になったことは、目的に沿った事業が実施できたと言える。取材協力者からも若者が興味をもってくれるきっかけになった、職業選択の可能性を次世代に伝える良い機会、という声があり、話を聞く生徒だけではなく、取材を受ける働き手にとっても有意義な事業となったことが伺える。 今回1グループにつき2名の働き手を取材する形式だったが、違う職種の話同日に聞いたことで、比較ができ、新たな気づきにつながったという生徒もいたので、職業の視野を広げるという目的の達成のために、数名の働き手の話を聞ける機会を創出できたことは効果的であった。 課題 川崎市男女共同参画センターで取材を実施したため、職場で取材をした方が仕事の具体的なイメージが付きやすかった、という声が取材協力者や生徒からあがった。事前訪問の際、仕事内容が分かる商品や職場の様子などを写真撮影させていただき生徒に共有したが、それでも取材先によっては、生徒たちに仕事内容が伝わりにくかったというご意見があったことは反省点であり、目的としている進路選択や働くイメージを広げるためには、職場での取材はより効果的であり、今後検討する必要がある。 また、生徒がタブレットを使用し撮影したため、操作に慣れない生徒たちが、機器の操作に気を取られ、働き手の話をしっかり受けとめるまで至らない様子が、当日の状況やアンケート結果から感じ取れた。働き手の話を聞き、職業について考えるという職業人取材本来の目的が達成できない要因にもなるので、実施方法については再検討の必要性を感じた。</p> |

5. 協議会の成果と課題

※計画段階で示していた検証方法を踏まえ、客観的・具体的に記載すること。
※成果を踏まえた今後の課題についてもあわせて記載すること。

【計画】

①取り組みを通じて、学習後の高校生が、地元の企業への理解や働き手を身近に感じ、就職後に起こりえる人生の諸リスクを知ったり、理想と現実との葛藤や経験を通じ困難を克服するスキルを身に着けるための体験機会を得ることができる。

→講話やワークショップ、インタビューや職場体験学習において、会社組織を含む様々な場での働くことの理解や働き方の選択肢を知り、将来設計に役立てたり、日常の学びと社会・職業との結びつきを理解したり、進路実現に向けた課題を把握する機会となっていたか、アンケートや教員へのヒアリング等を通じて把握する。児童生徒がプログラムの前後でどのように意識が変化したか、どのように成長したか、異世代との関わりを通じて、将来に対する不安を取り除きながら、現実的な社会的移行準備としてふさわしい内容であったかを教員と振り返る中で把握し次年度以降の支援メニューそれぞれの内容の改善につなげる。

【成果と課題】

合同企業説明会、CM撮影、インターンシップにより様々なかたちで、企業と学生(学校)を繋ぎ、学生の様々な気づきを得ることとなった(アンケート参照)。一方で、一部の学生にはミスマッチも見られ企業に迷惑が掛かることもあった。

【計画】

②企業による教育支援活動は、単なる社会貢献活動にとどまらず、社員の働き方の見直しやモチベーション向上につながる。

→子育て期にある男性職業人にヒアリングしたり、体験学習の協力先の職業人にアンケートを取り、企業内教育等への利点があるかどうかを把握する。若手の働き手にとって自社の魅力を伝える機会としたり、自身の仕事を見つめる機会になっているかなどを検証する。

【成果と課題】

【計画】

③教員にとって、年間の計画や生徒の実情に合わせて必要となる支援メニューを選択し実施することができる。

社会人講師の開拓、職場体験等の啓発体験の受け入れ企業等を一から探すのではなく、企業の集まる部会に参加することでキャリア教育のねらいや学習全体の中での位置づけなどを説明する機会を持ち、教育支援コンテンツを拡充することができる。

→必要な支援が受けられたか、外部リソースとしての有効な選択肢が増えたか、実施者間や学校現場にとって講師依頼方法等の手段なども含めて利用しやすい形になっているかヒアリング等で把握する。また、平成26年度教員とともに作成した「ライフキャリア教育ワークブック」の活用状況を把握し、従来のキャリア教育プログラムに加える形で、これまでのキャリア教育のさらなる充実につながっているかどうか、それらが生徒や教員、保護者にとって理解しやすい内容であるか、アンケート調査等により把握する。

【成果と課題】

これらの新しい試みは教員にとっては歓迎を受け、また実際に好評であった。しかしながら、協力関係にある経済労働局や企業側には本取り組みが時には奇異に移り、調整が困難なことがあった。